

平成18年度 薬学研究科修士課程選抜入学試験問題

科目番号	科目名	問題枚数	受験番号	氏名
12	生化学	No. 1 4枚		

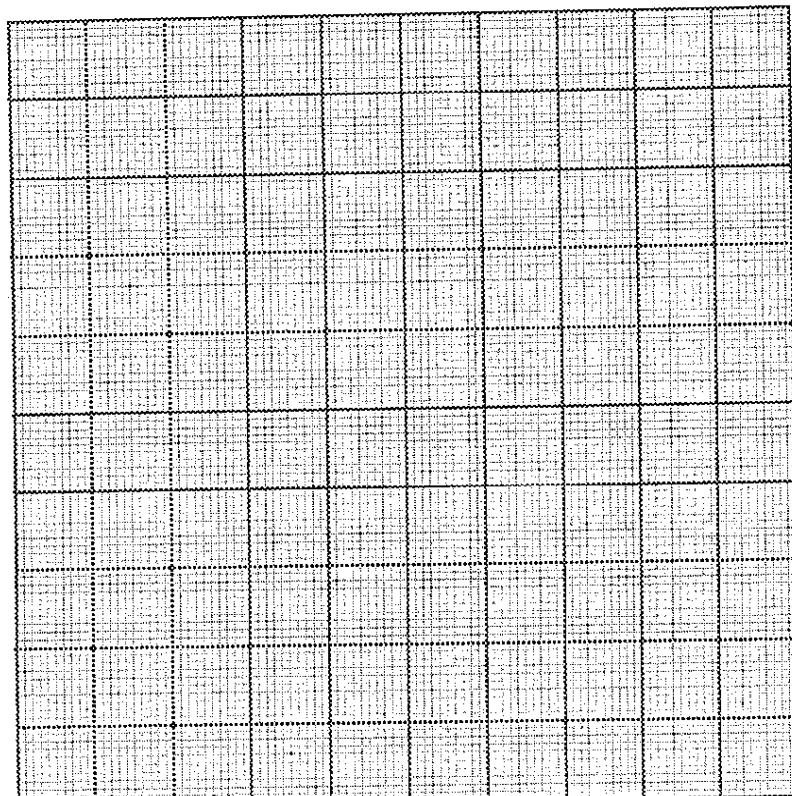
問題1 次の文を読み、問題(1)～(6)に答えよ。ただし、求める数値の有効数字は2桁とする。

(10点)

精製酵素 E とその基質 S を用いて、阻害剤 A 添加及び無添加の条件で、さまざまな基質濃度における反応初速度 ( $V_0$ ) を測定し、下の表のような結果を得た。ただし、E は単量体であり、反応様式はミカエリス-メンテン (Michaelis-Menten) の式  $V_0 = V_{\max} [S] / (K_m + [S])$  に従うものとする。

基質濃度		阻害剤無添加 (反応初速度)		阻害剤 A 添加 (反応初速度)	
[S] (mM)	1/[S] (mM <sup>-1</sup> )	$V_0$ (nmol/min)	$1/V_0$ (min/nmol)	$V_0$ (nmol/min)	$1/V_0$ (min/nmol)
0.2	5	28.6	0.035	16.7	0.060
0.5	2	50	0.020	33.3	0.030
1	1	66.7	0.015	50	0.020
2	0.5	80	0.0125	66.7	0.015
5	0.2	91	0.011	83.3	0.012
10	0.1	95.2	0.0105	91	0.011

- (1) 阻害剤を加えないとき（無添加）、また阻害剤 A を加えたときの基質濃度と反応初速度のデータを用いて、それぞれのLineweaver-Burk plot (二重逆数プロット)を一枚のグラフ用紙(右)に書きなさい。



採点	
	[ ]

平成18年度 薬学研究科修士課程選抜入学試験問題

科目番号	科目名	問題枚数	受験番号	氏名
12	生化学	No. 2 4枚		

(2) (1) の結果から酵素 E の基質 S に対する  $K_m$ ,  $V_{max}$  を求めなさい。

(3) 阻害剤 A を添加したときのLineweaver-Burk plot (二重逆数プロット) のグラフから酵素 E に対する阻害剤 A の阻害機構を説明しなさい。

採点	
----	--

[ ]

平成18年度 薬学研究科修士課程選抜入学試験問題

科目番号	科目名	問題枚数	受験番号	氏名
12	生化学	No.3 4枚		

問題2 次の文を読み、文中の 1 ~ 12 に入れるのに最も適切な数字・語句を入れなさい。  
(10点)

DNAの複製は非常に高い正確度で、しかも細胞周期のある特定の時期にのみ起こる。複製は 1 であり、それぞれの鎖は、新しい娘鎖のための鋳型として働く。複製は、開始、伸長そして終結という3つの局面からなっている。反応はオリジン(複製起点)から開始し、通常、その点から2方向性に 2 を形成して進行する。DNAはDNAポリメラーゼによって、3 → 4 の方向に合成される。2において、5 鎖は連続的に、2 の移動と同じ方向に合成される。6 鎖は不連続に 7 フラグメントとして合成された後、酵素8 によって連結される。DNA複製の正確さは、(1)ポリメラーゼによる塩基の選択、(2)ほとんどのDNAポリメラーゼに存在する9 → 10 プルーフリーディング(校正読み)エキソヌクレアーゼ活性、そして(3)複製後にも、依然として残されている不適正塩基対を修復する特別な機構、によって維持されている。ほとんどの細胞は何種類かのDNAポリメラーゼをもっている。大腸菌では、DNAポリメラーゼ11 が主要な複製酵素である。DNAポリメラーゼ12 は複製過程、組換え、修復などで特別な役割を担っている。

<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1</span>	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">2</span>	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">3</span>
<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">4</span>	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">5</span>	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">6</span>
<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">7</span>	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">8</span>	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">9</span>
<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">10</span>	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">11</span>	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">12</span>

平成18年度 薬学研究科修士課程選抜入学試験問題

科目番号	科目名	問題枚数	受験番号	氏名
12	生 化 学	No.4 4枚		

問題3 次の表は真核細胞と原核細胞の mRNA の構造に関する一般的な違いをまとめたものである。 mRNA の構造の視点から、翻訳における真核細胞と原核細胞の違いについて述べなさい。  
(10点)

	原核細胞	真核細胞
5'末端キャップ構造	なし	あり
3'末端ポリ(A)鎖	なし	あり
シャイン-ダルガノ配列 (SD配列)	あり	なし
開始コドンの位置	SD配列より約10塩基 下流のAUG	5'末端から最初のAUG
読み取り枠の構成	ポリシストロン性	モノシストロン性